

平成 29 年度事業報告

➤ 自主事業（中橋・浪越）

1. 子育て情報誌「おやこDEわはは」
2. わははメール
3. バナー広告
4. サポーターズ・クラブ
5. メディア
6. ママ∞フェスタ 2018
7. わははネット法人設立15周年記念パーティ

➤ 受託事業（中橋）

1. 高松市 子育て支援総合情報発信事業
2. 香川県 縁結びから子育てまで美容-eki 業務
3. 香川県 「イクケン香川」子育てカレッジ事業
4. 高齢者居場所づくり事業（居場所ハンドブック作成）
5. 全国セミナー高知開催 現地事務局
6. 香川県 子育て支援人材養成事業
7. 高松市 中学生と乳幼児のふれあい事業
8. 香川県 働き方改革モデル企業サポート業務
9. 香川県 働き方改革コンサルタント養成講座業務

➤ 地域子育て支援拠点事業

- ・わはは・ひろば坂出（三谷）
- ・わはは・ひろば高松（鏡原）
- ・たかまつ地域子育て支援コーディネーター事業（前田）
- ・わはは・ひろば香西（郡）
- ・指定管理事業「まるっ子ひろば」（さかいで子育て支援センター）
 - ・自主事業（辻野）
 - ・「まるっ子ひろば」子育てひろば（太田）
 - ・「まるっ子ひろば」子育て相談（太田）
 - ・「まるっ子ひろば」一時預かり事業（太田）

➤ 自主事業（媒体・イベント）

1. 子育て情報誌おやこ DE わはは

『おやこ DE わはは』 vol.72～vol.77 重点実行項目の振り返り

■わははネットが手掛ける事業とリンクした新コーナーを連載

①子育て美容-eki バトンリレー 【縁結びから子育てまで美容-eki 事業】

27 年度～29 年度認定の店(美容室・理容室・鍼灸接骨院・サロンなど)から、1店舗ずつ紹介。

②香川きらママ 【働き方改革、ワーク・ライフ・バランス、女性活躍推進

働き方改革を推進し、ワーク・ライフ・バランスや女性活躍推進に積極的な企業で働く従業員(ママ)と雇用主(または上司)へのインタビュー。

■年度はじめに年間テーマを提示して、取材先や協賛企業に働きかける

→企業とママを結ぶための早めの情報収集、協力者の開拓、企業への情報提供を行えた。

74号(9月号) 七五三:写真スタジオ

75号(11月号) ママの健康:子連れ OK の乳がん・子宮がん検診施設やサロン

76号(1月号) 住みやすい家づくり:住宅メーカー

77号(3月号) 習い事:習い事教室

■わはは☆ママモニターを継続して活用

・つながるツールの拡大・・・月1回のメルマガに加えて、LINE@を検討したが、実施に至らず。

・モニター参加を電話で呼びかけることで、近況や参加希望を知ることができ、募りやすくなった。

■わははネットの広報媒体として活用

自主事業・委託事業の周知・参加募集・開催報告を掲載

・ママ∞フェスタ2017 ・29年度縁結び・子育て美容-eki 事業

・29年度子育てカレッジ事業 ・わはは・ひろば高松、わはは・ひろば香西、わはは・ひろば坂出、まろっ子ひろば

・FM ラジオ、RNC ラジオ、イクコミ ・サポーターズクラブ

2. わははメール

■コンテンツの整理・見直し

1. 子育てメッセージ 文章の見直し≫時代の変化とともに変わる部分を見直し、一部修正

2. 子育てイエローページのコンテンツを整理

3. 誕生日メッセージの一部リニューアル

■アンケートの実施、リアルママの声を収集

◎香川の子育てに関するアンケート

◎子どもと暮らす家アンケート

◎子どもの食事に関するアンケート

・広告実績 11件

内訳・・・住宅メーカー、各種教室、ママの再就職、イベント周知するなど

3. パナー広告

■受注実績一覧

【わははネット HP】

- 新規1件:株式会社ビーグル(ママ向け内職:初回3か月)
- 継続5件:学研ほっぺんくらぶ、ジェムスクール、株式会社アイネクスト、ホテルセカンドステージ、田中工務店、吉田建設(代理店経由)
- 短期1件:人形のあづま、

4. サポーターズ・クラブ

現在20件 H28 年度新規入会:いいむら整骨院、エーム商事(株)サンテ・ペアーレ

5. メディア

*FM 香川「ラジオ DE わはは」

毎週金曜 14:30~FM 香川「ウィークエンドシャトル」の1コーナー。

県内のイベント・講座、わははネットの事業(子育てカレッジ等)、情報誌発行等

(新) *ケーブルメディア四国(高松ケーブル)

イクコミ!知って得する子育て情報コーナー(毎日オンエア)

(新) *RNC ラジオ「さわやかラジオ ハイタッチ」月1回「子育てことはじめ」

6. ママ∞フェスタ 2017 (6 回目) -平成 29 年度実施報告-

■開催概要と実績

- 日 時 平成 29 年 5 月 14 日(日)「母の日」10:00~16:00
 - 場 所 サンメッセ香川 大展示場 全面、第1屋外展示場
 - 来場者数 のべ 8,000 名
 - 設営・撤去 ・設営業務全般 : レントオール高松(株) ・清掃業務 : ハウス美装
 - 出展団体* ()内は昨年度
 - ・企業 45 社 55 ブース(36 社 39 ブース) ・ママ 21 団体 25 ブース(19 団体 20 ブース)
 - ・ステージ 5 ステージ(7 ステージ) ・同梱サービス 7 社(6 社) ・広告協賛 3 社(4 社)
 - ・O×クイズ賞品提供 9 社
- 新規出展 : 企業 13 社、ママブース 12 団体、ステージ 2 ステージ

7. わははネット法人設立15周年記念パーティ

- ◆ 5月25日 会場:高松国際ホテル
来場者数:196人



➤ 受託事業(報告)

事業名	1【高松市委託事業】高松子育て支援総合情報発信事業
事業内容	子育て支援総合情報サイトの管理・「らっこ」改訂増刷作業 10,000部増刷 ひとり親サイトの構築、冊子改訂増刷作業 2,000部増刷
実施予定日時	平成29年4月1日～平成30年3月31日
実施場所	わははネット事務局
従事者の人数	5人
受益対象者の範囲及び人数	高松市内の子育て家庭に向けて
支出額	¥4,000,000

事業名	2【香川县委託事業】縁結びから子育てまで美容-eki業務
事業内容	香川県の子育て家庭や子育て支援の現状、結婚支援について学んでいただき、子育て家庭を温かく見守り応援し、結婚について考えるきっかけや結婚を希望する方の結婚支援の窓口になり得るサロンへの参画を促す。
実施予定日時	平成29年6月22日～平成30年3月16日
実施場所	わははネット事務局
従事者の人数	5人
受益対象者の範囲及び人数	香川県内の理美容院・リラクゼーションサロン・整体院等で勤務されている方、管理者
支出額	¥8,925,000

事業名	3【香川县委託事業】『イクケン香川』子育てカレッジ事業業務
事業内容	子育て家庭の子育てに関する不安や孤立感を解消し、時代を担う子どもたちを安心して生み、健やかに育てることができる環境を整えることを目的に、主に子育て中の保護者を対象に、子育てに関する正しい知識や情報を提供し、さらに地域の子育て支援事業につながるきっかけとする。
実施日時	平成29年7月3日～平成30年3月16日
実施場所	香川県内
従事者の人数	5人
受益対象者の範囲及び人数	香川県内の子育て家庭に向けて
支出額	¥6,270,000

事業名	4【高松市委託事業】高齢者居場所づくり事業（居場所ハンドブック作成）
事業内容	居場所ハンドブックを2種類作成する。 A：各居場所での先進的な取り組み等を紹介することにより居場所の運営の参考となるよう工夫された企画・編集のハンドブックを作成する。（A4版フルカラー500部製作） B：子育て関連事項（高齢者の子育てへの関わり方・子育ての昔と今の違い・世代間交流等）を掲載することによって、居場所の参加者（高齢者や子どもたち）がハンドブックを見ながら一緒に居場所で遊んだり過ごしたりすることのできる情報が掲載されたハンドブックを作成する。（A4版フルカラー10,000部製作）
実施予定日時	平成29年5月1日～平成29年10月31日
実施場所	わははネット事務局
従事者の人数	5人
受益対象者の範囲及び人数	高松市内の子育て家庭に向けて
支出額	¥2,500,000

事業名	5【子育てひろば全国連絡協議会】全国セミナー高知開催 現地事務局
事業内容	子育てひろば全国連絡協議会が主催する、高知開催のセミナーの現地事務局業務を行う。
実施予定日時	平成29年5月1日～平成29年10月31日
実施場所	わははネット事務局
従事者の人数	5人
受益対象者の範囲及び人数	全国セミナー参加者
支出額	¥1,267,500

事業名	6【香川県委託事業】子育て支援人材養成事業
事業内容	地域の子育て支援に取り組む人材を養成する研修を実施し、研修を修了した者を「子育て支援員」及び「放課後児童支援員」として認定する。
実施日時	平成29年5月上旬～平成30年3月31日
実施場所	わははネット事務局
従事者の人数	3人
受益対象者の範囲及び人数	県内の子育て支援の仕事に関心が持ち、子育て支援分野の各事業等に従事することを希望するもので受講申し込みをする者。
支出額	¥10,191,000

事業名	7【高松市委託事業】中学生と乳幼児のふれあい事業
事業内容	中学生と乳幼児の親子がふれあう中で、中学生がこれからの将来の像を描いたり、自分が生まれてからこれまでを振り返ったりすることができる経験をする。乳幼児の親子は、自分の育児経験を中学生に話すことで役立ち感を感じたり、自分の子育てを客観的にみつめる機会を持つ。
実施予定日時	平成29年5月中旬～平成30年3月31日
実施場所	紫雲中学校、勝賀中学校
従事者の人数	5人
受益対象者の範囲及び人数	上記2か所の中学生及び参加親子
支出額	¥320,000

事業名	8【香川县委託事業】働き方改革モデル企業サポート業務
事業内容	働き方改革に取り組む意欲のある県内の企業等（以下、「支援企業」という。）を公募・選定し、コンサルタント等の専門家を派遣し、企業におけるワーク・ライフ・バランスの取組みが効果的に進められ、支援企業の経済活動の発展につなげることができるよう支援するため、以下の業務を行う。
実施予定日時	平成29年6月1日～平成30年2月28日
実施場所	わははネット事務局
従事者の人数	5人
受益対象者の範囲及び人数	香川県内に本社・本店を有し、常時雇用労働者数が300人以下である、働き方改革に取り組む意欲のある県内の企業・法人・団体等
支出額	¥6,400,000

事業名	9【香川县委託事業】働き方改革コンサルタント養成講座業務
事業内容	企業に対し、「働き方」を取り巻く様々な諸要因について、まだ企業側が認識していない、顕在化していない点も含めて指摘し、解決案を提示する役割を果たす人材を育成・確保することで、各中小企業における働き方改革を推進するもの。
実施予定日時	平成30年1月29日～平成30年3月31日
実施場所	わははネット事務局
従事者の人数	5人
受益対象者の範囲及び人数	香川県内で活動している①社会保険労務士、②中小企業診断士、③香川県経営者協会、県内各商工会議所及び商工会等の企業への指導・助言担当者等
支出額	¥2,050,000

➤ 【わはは・ひろば坂出】平成 29 年度報告

『目標』 もう一步前へ～坂出ひろば 2.0～

◆情報提供：利用者が楽しめる情報を提供

- ・イベント時の写真掲示やロコミコーナーの活用を促し、利用者が見たいと思う掲示板へとリニューアルした。

【成果】 イベントへの参加率アップ。掲示板を見る人が増加し、利用者自ら持ち込みで掲示してほしいとの要望が出るようになった。

- ・HP を毎日更新し、大人も子どももひろばで楽しんでいる様子が伝わる内容にした。3.4 か月児健診やひろばでのお知らせで毎日更新をアピールし、見てもらえるよう声かけした。

◆イベント：ひろばに来たいと思うきっかけになる新しいイベントを開催。

- ・新企画イベントを月 1 回以上開催。また、利用者が参加したいと思えるよう HP や掲示板に対象者が興味を持つように子どもの楽しみポイント、保護者の楽しみポイントを詳しく載せ、参加を促した。

【成果】 (資料①) ひろば利用人数が昨年に比べ 1 日平均 7.2 人増加。(資料②) ひろばリピート率がアップし月 4 回以上利用する人が昨年に比べ月平均 6 人増え、利用人数の増加につながった。またイベントによる新規登録件数が全体の 35%に上り、新規獲得につながった。

◆スタッフのかかわり：スタッフのチームワークの構築。

- ・連携を図るため、朝のミーティングの習慣化、振り返りやミーティングでスタッフの動きについて確認し合った。

【成果】 なぜそうしたのかと疑問を言い合う習慣ができ、場面に合わせた動きができるようになってきた。

◆地域連携：利用者地域をつなぐ。

- ・地域資源の活用、商店街含め近隣とのかかわりを持つためのイベントを実施。

【成果】 地域の方が通りがかりにひろばに顔をだしてくれ、利用者地域の人たちとの交流促進につながった。

◆広報活動：新規利用者の獲得

- ・車道、歩道共に目立つ場所にひろば紹介ボードを設置した。
- ・3.4 か月健診時の説明をわらべうた遊び・赤ちゃんひろばに特化し内容まで説明した。

【成果】 ひろばを知ったきっかけで健診が 9%から 23%へと増加。わらべうた・あかちゃんひろばの新規登録数が 27.8%と割合が高い。

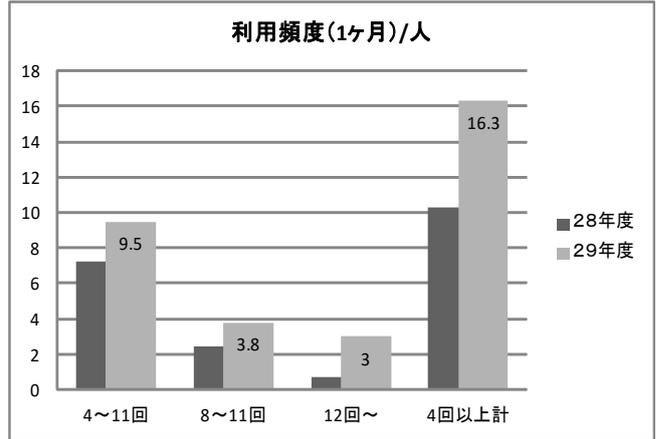
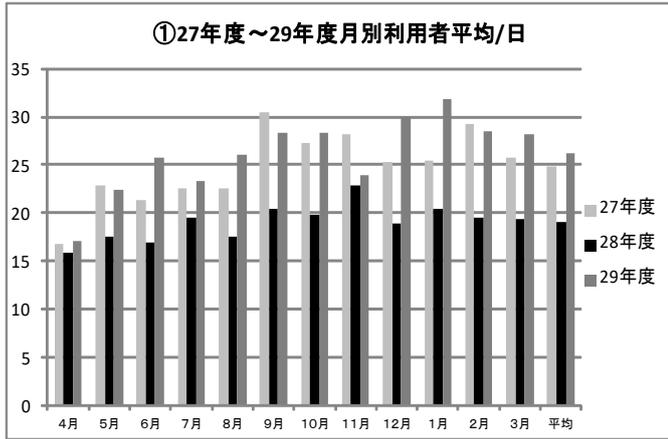
《ひろばを知ったきっかけ》

H28 1. 紹介 26% 2. 通りがかり 12% 3. HP、3,4 か月児健診 9% 4. 情報誌、通信、他のひろば 5% 他

H29 1. 紹介 35% 2. 3,4 か月児健診 23% 3. 通りがかり 19% 4. 通信 8% 5. 情報誌 7% 他

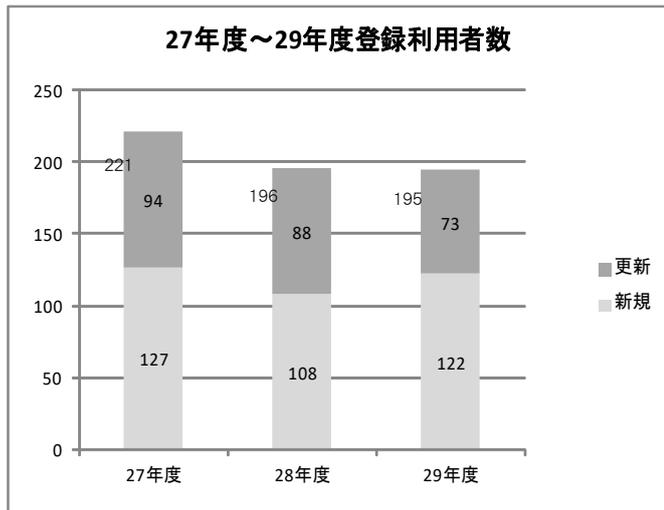
① 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・お誕生日会 月 1 回 / 計 12 回 ・赤ちゃんひろば 月 2 回 / 計 23 回 ・ツイズデー 月 1 回 / 計 12 回 ・わんぱくひろば 月 1 回 / 計 12 回 <p>ひろば開館中は、親子が孤立しないようにスタッフが十分配慮し、自由に交流ができるようにしている。同じ月齢の子どもを持つ親同士や多胎児の親同士が出会える場を作り、より交流が進むきっかけづくりをしている。異年齢交流や父親の交流にもつながるよう、土曜日(月 1 回)も開館している。</p>
② 子育て等に関する相談・援助の実施	<p>スタッフは一緒に子育てを考え、見守る姿勢を前提に、情報提供や必要であれば専門機関を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産師相談・子どもの不思議?!Q&A (臨床発達心理士参加) ・保健師さんと座談会・子育て支援コーディネーター
③ 地域の子育て関連情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ひろばに情報コーナーを設置し、市役所、図書館などから得た子育て情報をいつでも見られるように整理・配置しておく。 ・ロコミ掲示板を設置し、利用者相互の情報交換が図れるようにしている。 ・サークル、子育て支援拠点などの情報をわかりやすく整理する。 ・わははひろば専用ホームページの運営。その他、本体 NPO で収集した情報を携帯メール、インターネット、Facebook、情報誌等で提供。
④ 子育ておよび子育て支援に関する講習等の実施	<p>救命救急講座 (1 回/年)、子どもの不思議?!Q&A (3 回/年)、わらべうたあそびの講座 (12 回/年)、防災講座 (11 回/年)、おんぶひも講座、手あそび、絵本読み聞かせ (随時) 他、ツイズデーや赤ちゃんひろばなど、同じ立場や年代の人が集まれる機会を設けている。</p>

平成29年度 わはは・ひろば坂出

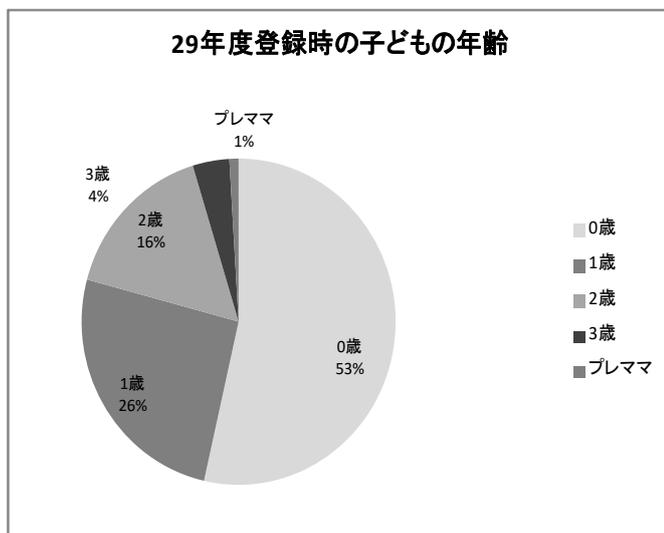


10月の引っ越し以降は1日平均28人と引っ越し前より5人の増加。ひろばが大通り沿いの1階になったため利用しやすくなったことが理由と考えられる。

登録数は減少したが利用人数は増加した。訳は利用者のリピート率の増加にあった。利用頻度の多い利用者は兄弟育児の家庭が多く、ひろば以外の外出が難しかったと考えられる。



第二子保育料無料制度の周知による就職や、育休による職場復帰のため卒ひろばとなる利用者が増えたためか更新数が減少した。



0歳が半数以上を占める。3、4カ月児健診でほぼ全ての子育て家庭に広報でき、赤ちゃんひろばやわらべうた遊びといった赤ちゃん向けイベントの参加につながっていることが理由とされる。一方、2、3歳児は外遊びに出かけるのか、わんぱくひろばの参加率が低い。内容の見直しが必要とされる。

【わはは・ひろば高松】

目標：ひろばが地域となるために

◎事業計画

◆情報提供…ひろば内クチコミ掲示板の活性化

【成果】商店街にお散歩に行くイベントの様子と感想を、写真付きでお知らせしたところ商店街のおすすめのお店やイベントなどの口コミが増えた。(月平均3件増)

◆スタッフの関わり…朝・夕と週1のミーティングで利用者の状態の振り返りを実施。

【成果】コーディネーターとの連携や支援方法について共通理解につなげた。

◆イベント…つながりができるような会の開催。

【成果】転勤族の会ではおたすけスタッフに参加してもらい、地元の情報や子育ての話などをする時間をとった。その結果、知り合いのいない土地での子育ての不安をひろばで聞いてもらうことで、継続利用に繋がった。

◆地域とのつながり…ひろばのイベントで商店街に出向き、通信を置いてもらえるようにお店の方に依頼した。

【成果】地域の方にひろばを知ってもらうことで、子育て家庭にひろばを紹介してもらったり、利用者がお店を利用するなど地域と繋がるきっかけになった。

・商店街での通信設置店4件増

◆利用者のか…おたすけボランティアの活動を支援し、自身の楽しみ、役立ち感につなげる。

【成果】おたすけスタッフ主催のイベントだけではなく、ひろばのイベントにも積極的に参加してもらった。

3月末におたすけスタッフに向けたアンケート調査をしたところ、11名中全員がこれからも活動を続けていきたいという結果になった。

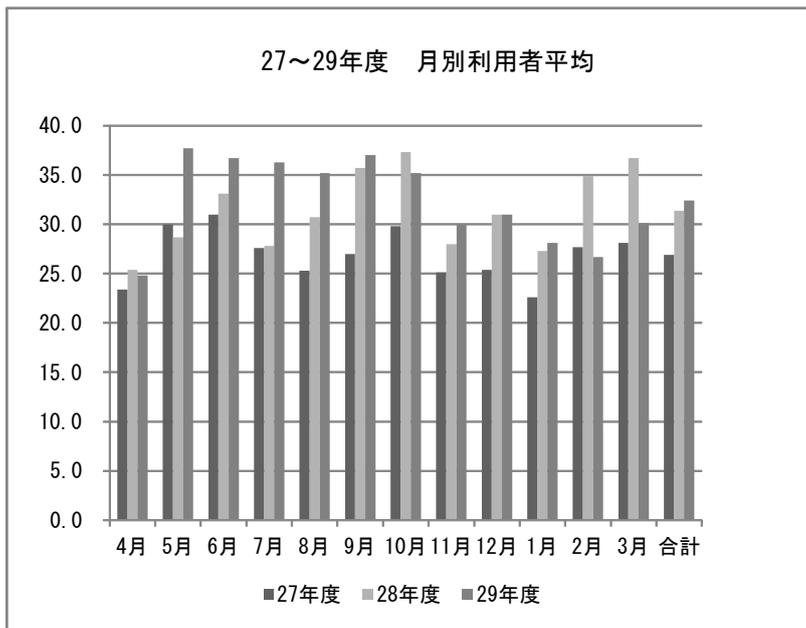
《ひろばを知ったきっかけ》

H28 ①紹介 26% ②乳児健診 18% ③HP 16% ④通信 15% その他

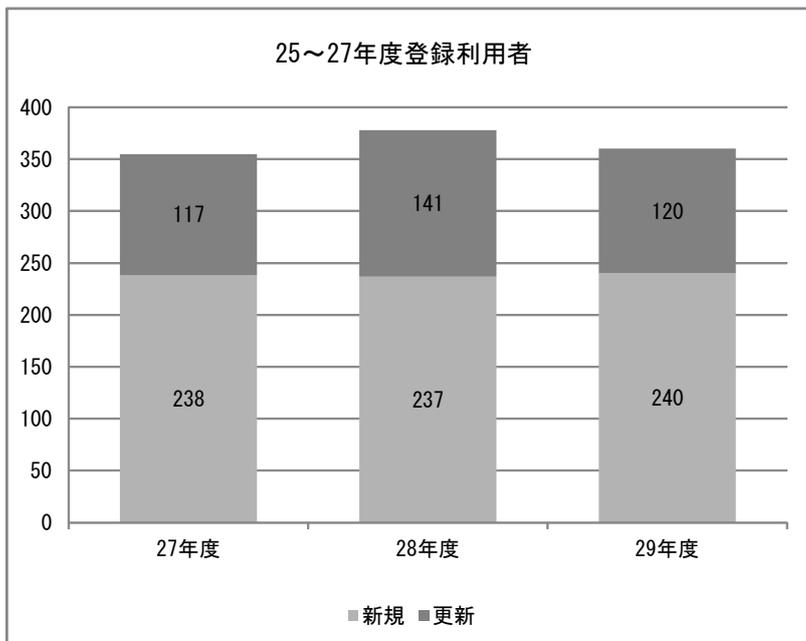
H29 ①HP 22% ②紹介 21% ③情報誌 13% ④通信 11% ⑤乳児健診 15% その他

<p>①子育て親子の交流の場の提供と交流の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生日会：月1回/12回 ・プレママ&赤ちゃんひろば：月1回/12回 ・ツイズデー：月1回/12回 ・先輩ママ主催のイベント(12回/年) ・年度生まれの会/月2回 ・土曜ひろば 月1回/計12回 <p>ひろば開館中は、親子が孤立しないようにスタッフが十分配慮し、自由に交流ができるようにしている。同じ月齢の子どもを持つ親同士や多胎児の親同士が出会える場を作り、より交流が進むきっかけづくりを行っている。安心して出産、育児ができるようプレママと先輩ママの交流も定期的に開催。</p> <p>休日に開館日を設け、父親も参加しやすいイベントを休日に開催予定。</p>
<p>②子育て等に関する相談・援助の実施</p>	<p>ひろば内で相談、またはスタッフと個人で相談ができるように個別の部屋・時間の選択ができるようにしている。</p> <p>スタッフは一緒に子育てを考え、見守る姿勢を前提に、情報提供や必要であれば専門機関を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレママ&赤ちゃんひろば ・子育て座談会(臨床発達心理士参加) ・コーディネーターによる幼稚園・保育所情報会(1回/月程度) <p>【連携機関】こだま学園・保健センター・臨床発達心理士</p>
<p>③地域の子育て関連情報の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ひろばに情報コーナーを設置し、行政からの情報のチラシ、コミュニティセンター等で集めた子育て情報を提供。 ・最新の幼稚園、保育所、遊び場などを分かりやすくファイルに整理。 ・子育てに関する新聞記事や講座などの資料を掲示している。 ・クチコミ情報交換ノートを作り、自由に子育て情報を交換できるように管理。 ・わははひろば専用サイトの運営。その他、本体 NPO で収集した情報を携帯メール、インターネット、情報誌等で提供。 ・最新の情報を収集できるように、ひろばに iPad を設置。 ・利用者からの情報提供を募る。
<p>④子育ておよび子育て支援に関する講習等の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児のための救命講習(2回/年)、子育て座談会(5回/年)・わらべうたあそびの講座(3回/年) 防災講座(2回/年)、ファミサポ登録会(2回/年)、おもちゃの話(1回/年)、 ・工作あそび、手あそび、絵本の読み聞かせ(随時) ツインズデーやプレママ&赤ちゃんひろばなど、同じ立場や同年代の人が集まれる機会を設けている。

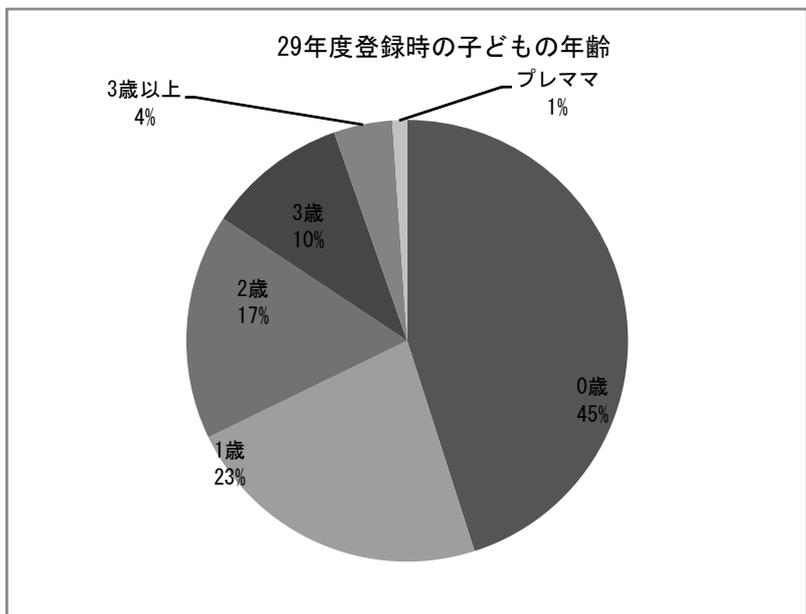
平成29年度 わはは・ひろば高松 月別利用者数



29年度は通信の配布先や、転勤族の会などのイベントを増加した結果、僅かではあるが前年度より利用者数は増加した。また、流行性感染症の時期には一時的に減少したと考えられる。



前年度と変わらず新規利用者が3分の2を占めている。ひろばの特徴として転勤族が多いので更新される方が少ない。



前年度に比べて0～1歳の利用が7割を占めている。4ヶ月健診訪問時にコーディネーターがひろばの周知をしたり、ひろばのパンフレットの設置場所を増やしたことで0歳からでも利用できる場所と認知されたと考えられる。

【高松市子育て支援コーディネーター事業】

目標：関係機関との役割を明確にした支援を行う

妊娠期からの支援となるよう産婦人科への広報・母子保健コーディネーターと連携を行う

『取組・効果』

○必要に応じて他機関を含めたケース会を実施。

ケース会議をもつことで各機関の支援内容を明確にし、役割分担を行い利用者に合った支援につなげられた。

○定期訪問先を増やす。

29年度は、前年度の6か所に加え、1歳6か月児健診とたかまつミライエの2か所増え、相談対象者や子どもの年齢の幅が広がり、より身近な相談箇所となった。

1歳6か月児健診では、その場で情報提供を行ったり、コーディネーター周知にもなっている。

○4ヶ月児相談・1歳6か月児健診でコーディネーターの周知を実施。

その後拠点へつながるなどの効果がある。アンケートによる拠点の新規利用のきっかけで、HPや紹介の2割に続き、1割が4ヶ月児相談となっている。

○相談場所に来られない人への情報提供の強化。

HPにてコーディネーターの日に情報提供した内容を掲載。その他コーディネーター通信を発行し、時期に応じた内容を厳選し情報提供を行った。

○個別相談の予約を取りやすくする。

コーディネーターが、拠点に居る日をHPに掲載することで、利用者がそれを参考に相談予約を取っている。

○妊娠期からの利用者支援につながるために通信配布個所に産婦人科・県立中央病院を追加したが、通信を見ての利用には繋がらなかった。

○ひとり親の集まれる場所の開催。

シングル・離婚を考えているとの相談件数が増えているため、情報提供と当事者同士でのピアサポートを行える場所の提供を行った。

【相談件数・内容】資料①資料②を参照。

・昨年同様、情報提供内容の割合は、保育所・幼稚園が全体の7割となっている。

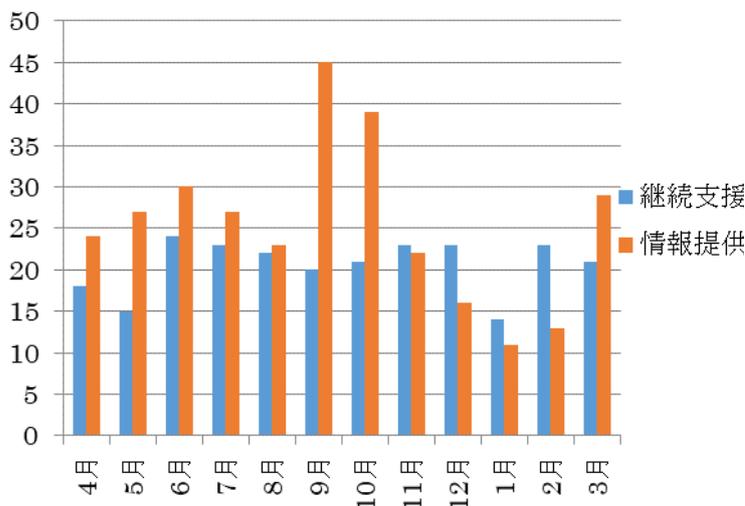
保育所入所の相談は、一年を通しての相談があった。(資料①)幼稚園入園の相談は、9・10月が多くなるためその時期に全体的に相談件数は増加する。転勤族が多い地域性から転入の時期や満3歳児入園を考える方も増えたため、3・4月頃の相談も多いと考えられる。

(資料②)継続支援内容で多いのは子どもの発達、続いて育児不安となっている。これは、27年度から変わらない。対応としては拠点と連携して子どもの見守りや母の居場所となるように支援。発達に関しては常田先生の個人相談・市の相談機関につないだ。育児不安同様、拠点と連携し母の精神面での支援や普段の親子の関わり方の支援を行った。

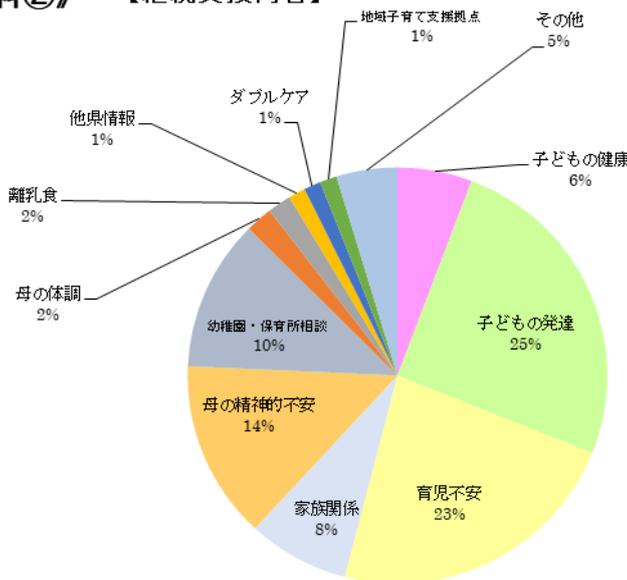
・継続支援でも保育所・幼稚園相談が多く、発達の気になる子どもをもつ利用者のニーズに合ったものを情報提供できるようにした。

・昨年相談がなかったダブルケアは支援内容に関する周知・認知の広がりによるものと考えられる。他県情報は継続的に関わっている家庭を利用者支援や地域子育て支援拠点に繋ぎ、支援が途切れないようにした。

《資料①》 【相談件数】



《資料②》 【継続支援内容】



<p>① 利用者の個別ニーズを把握し、それに基づいて情報の集約・提供、相談、利用支援等を行うことにより、教育・保育施設や地域の子育て支援事業等を円滑に利用できるよう実施に関すること。</p>
<p>○電話相談、予約による来所相談を受け付ける。 ○担当エリアの地域子育て支援拠点に出向き、利用者からの相談を受け付ける。 ・わはは・ひろば高松（月1回） ・わはは・ひろば香西（月1回） ・もこもこ（月1回） ・支援センター はなのみや（年6回） ・おひさまひろば（月1回） ○担当エリアのコミュニティセンターに出向き利用者からの相談を受け付ける。 ・栗林コミュニティセンター ほのぼのひろば（2カ月に1回）、プレママひろば（2ヶ月に1回） ○担当エリアの小児科や遊び場に出向き、コーディネーターの周知活動と利用者からの相談を受ける。 ・へいわこどもクリニック 赤ちゃんカフェ（年6回） ・たかまつミライエ（年3回） ○相談内容からの連携・情報収集 香川県 子育て支援課・高松市 保健師・母子保健コーディネーター・子ども女性相談室・こども園運営課・こども園総務課・障がい福祉課・市民課・他拠点コーディネーター・国分寺包括支援センター・男女共同参画センター・こだま学園・ファミリーサポートセンター・ほっと助産室・香川県社会福祉協議会・高松市社会福祉協議会・臨床発達心理士・二番丁コミュニティセンター・栗林コミュニティセンター・保育所・幼稚園・こども園・企業主導型保育施設・認可外保育施設・アイパル香川・へいわこどもクリニック・認可外施設・他市利用者支援・他市保健センター・他市ファミリーサポートセンター・他県地域子育て支援拠点・他県利用者支援・他県保育・幼稚園課・かねとうこども食堂 ○当法人へのメールでの情報提供。 ○コーディネーター通信を作成し、時期に必要な子育て情報を提供する。 ○ケース内容に応じて訪問相談を実施。</p>
<p>② 教育・保育施設や地域の子育て支援事業等を提供している関係機関との連絡・調整、連携、協働の体制づくりを行うとともに、地域の子育て資源の育成、地域課題の発見・共有、地域で必要な社会資源の開発等に関すること。</p>
<p>○担当地域の幼稚園、保育所、地域子育て支援拠点等に出向き、現状や連携について確認する。 ○利用相談や幼稚園、保育所、地域子育て支援拠点等の訪問で出た課題について、高松市地域子育て支援コーディネーター事業を担当する4拠点和高松市との連絡会で共有する。 ○担当地域の保健センターの乳児健診に出向き、保健師と顔の見える関係の構築に努める。 ○ファミリーサポートセンターとの連携。 ・ファミサポ会員の問い合わせへの相談・情報提供を行う。 ○こども未来ネットワーク会議参加 ○香川東部地区虐待ケース検討会参加 ○子育て世代包括支援ネットワーク会議参加 ○高松市社会福祉協議会・香川県社会福祉協議会へおてらおやつクラブからの物資提供を行う。 ○デイサービスセンターシオンの丘との高齢者と親子の交流を行う。 ○コミュニティセンターでのサークル内容への相談を受け、サークル支援を行う。 ○関係機関への視察・事業についての情報収集。コーディネーターの事業説明連携調整を行う。 高松市社会福祉協議会・高松市子育て支援課・こども未来館整備室・市内産婦人科 ○ひとり親CAFÉを開催。ひとり親家庭への支援を行う。 ○ベビー・プログラムを開催。初めての育児不安の軽減に努める。 ○ハローワーク・マザーズコーナーへの認可外施設の情報提供 ○高松市保健師の拠点事業視察対応。拠点・コーディネーター事業の現状説明。</p>
<p>③ 本事業の実施に当たり、リーフレットその他の広告媒体を活用し、積極的な広報・啓発活動を実施し、広くサービス利用者に周知に関すること。</p>
<p>○4 拠点合同のリーフレットを作成、市内で配布。 ○香川県内に無料配布されている子育て情報誌「おやこDE わはは」、わははメール、わはは・ひろば高松通信にて子育て支援コーディネーターについて掲載。 ○わはは・ひろば高松（月1回）、わはは・ひろば香西（月1回）にて「コーディネーターの日」を開催し、コーディネーター事業や新制度について利用者へ情報提供を行う。 ○わははネットHPにてコーディネーター事業の周知を行う。 ○コミュニティセンターや桜町・勝賀の保健センターへ毎月出向き、コーディネーター事業についての説明を行う。 ○さくらんぼ教室にてコーディネーター事業の周知を行う。（6/8・10/12・2/8） ○コーディネーター通信を作成。市内へ配布。 ○高松市社会福祉協議会主催の勉強会に出向き事業説明を行う。</p>
<p>④ その他事業を円滑にするための必要な諸業務に関すること。</p>
<p>○月1回、4拠点が主催の、連絡会を開催。 ○4拠点合同で研修会を行う。研修会の講師に地域の関係機関の実務者を迎え、顔の見える関係を構築する。 ○スーパーバイザーを迎え、事例検討会、拠点でのスーパーバイズを行う。 ○関係機関合同でのケース会議出席（子ども女性相談室・保健師）</p>

【研修】

- ・発達障がい児・者サポーター養成講座
- ・ひろば全協 子育て支援コーディネータースキルアップ研修
- ・ひろば全協 全国子育てひろば実践交流セミナー in 高知
- ・香川県子どもの未来応援事業(子どもの貧困対策) コーディネーター養成研修【基礎研修】
- ・香川県子どもの未来応援事業(子どもの貧困対策) コーディネーター養成研修【専門研修】
- ・香川県児童虐待防止医療ネットワーク事業 子ども虐待の予防と支援研修
- ・香川スクールソーシャルワークセミナー
- ・ひとり親サポーター養成講座(しんぐるまざあずふおーらむ)
- ・地域まるごとケアプロジェクト
- ・産後うつ等、精神疾患を抱える人への関わり方(講師: 國方弘子先生)
- ・アクティビティインストラクター資格認定セミナー
- ・生産性向上研修
- ・広がれ、こども食堂の輪! 全国ツアーin かがわ
- ・子供の貧困対策マッチング・フォーラム
- ・ひろばミーティング(週1回 スタッフ対象)
- ・スタッフ研修 月1回

【わはは・ひろば香西】

『目標』 もう一步前へ～ひろばから地域へ、利用者と共に地域づくり～

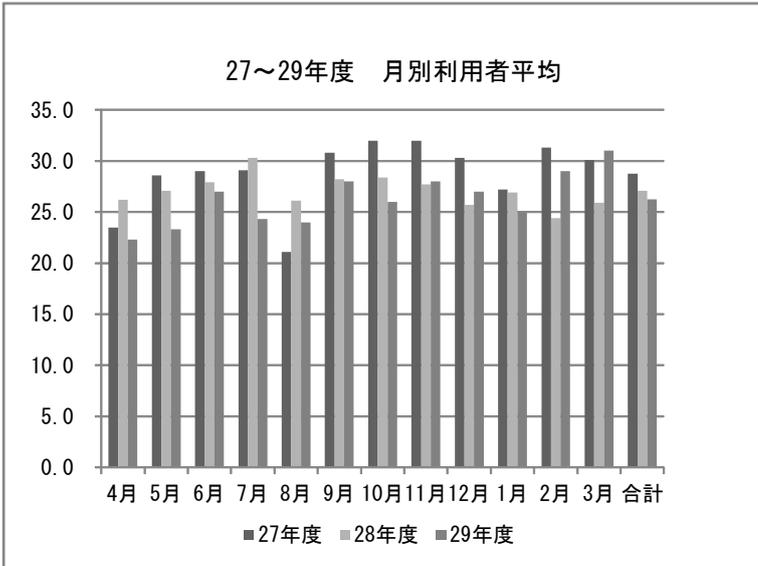
- ◆情報提供…積極的に地域に出向き地域情報を収集し、様々な方法で利用者が活用できるようにする。
 - ・地域別に印をつけて情報を掲示。地域の情報がすぐに見つかるようにした。
 - 【成果】地域情報取得 18% (H28) → 地域の情報が知りたい 25% (H29) ひろばは地域の情報が得られる場所と認識。
 - ・iPad のアルバム機能で情報収集、利用者が参加しやすいツールを使い、掲示と連動させた。
- ◆スタッフのかかわり…親子が安心してひろばを利用しながら周囲と交流できるようにかかわる。
 - ・振り返りやミーティングでひろばの様子や利用者の状況や支援の過程を共有した。
 - 【成果】利用者への支援の過程を共有することで、利用者への対応が具体的になり、継続できるようになった。
 - ・イベントを利用者同士の交流の機会となるように意識してスタッフがかかわった。
 - 【成果】イベントがきっかけとなり日常の利用者間の交流が広がった。母の交流 H28 21P→H29 30P
- ◆イベント…利用者同士が地域とつながるきっかけとなるイベントを開催する。
 - ・わんぱくあそび: 内容の流れを個人から集団であそべる内容につなげる。他の親子同士のかかわりが持てるようにした。
 - 【成果】利用組数は増加しなかったのは土間での開催の為冬季は参加者が激減したことが考えられる。内容はあそびが広がり積極的な継続参加が見られた。
 - ・わはは de フリママ開催。【成果】利用者同士の声掛けで継続して開催できた。積極的な広報・役割分担など利用者同士の支え合いが見られた。売上増加により利用者同士の達成感を共有できた。
- ◆地域とのつながり…利用者が地域を身近に感じられるイベントを開催し交流を深めていく。
 - ・シオンの丘交流 5 回に増加。スタッフ間で打ち合わせし、一緒に活動できる内容を取り入れた。
 - 【成果】回数を重ねることでより継続的な交流につながり、スタッフ間の交流も深まった。
 - ・ひろば OB 参加座談会【成果】地域の先輩ママとのつながりができ、今後の生活の見通しが持てた。

《ひろばを知ったきっかけ》

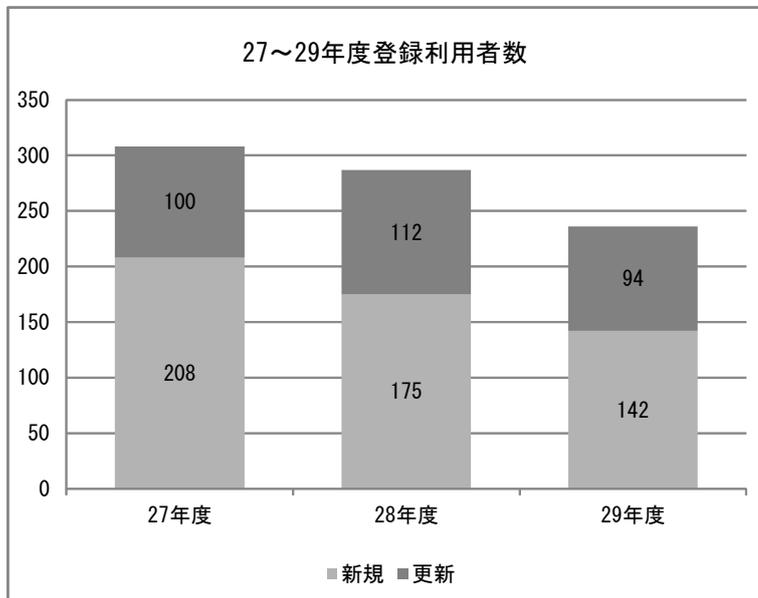
紹介 30% 2. 健診 28% 3. HP16% 4. 通信 9% 5. 情報誌 7% らっこ 他ひろば利用

①子育て親子の交流の場の提供と交流の促進	<p>・誕生会 月1回/計12回 ・プレママ&赤ちゃんひろば 月2回/計24回</p> <p>・ツインズデー月1回/計12回・土曜ひろば月1回/計12回・わんぱくあそび月1回/計12回</p> <p>・遠足 年1回・わははDE フリママ年1回 ・お茶会 年2回・ひろば同窓会</p> <p>親子が安心して利用できるようにスタッフが配慮し、親子同士が十分交流できるようにしていった。同じ月齢の子どもを持つ親同士や多胎児の親同士が集まるイベントを企画し、ひろばを通して親子が出会えるきっかけとなるようにした。利用者が主体となって開催するイベントを企画が利用者同士の交流が広がるように進めた。近隣の高齢者施設との交流・地域の方を招いてのイベントなどを通して、幅広い年齢の地域を交えて親子が地域交流できる機会を設けた。</p>
②子育て等に関する相談・援助の実施	<p>ひろば内での相談、また必要に応じて個別相談ができるように配慮していった。</p> <p>スタッフは、当事者の目線で一緒に子育てを考え、寄り添う姿勢を大切にしながら、必要な情報を提供し、状況に応じて専門機関とつながれるようコーディネーターと連携していった。</p> <p>・プレママ&赤ちゃんひろば ・ツインズデー・子育て座談会（臨床発達心理士参加）</p> <p>【連携機関】こだま学園、勝賀保健ステーション、地域子育て支援コーディネーター</p>
③地域の子育て関連情報の提供	<p>・ひろばに情報コーナーを設置し、市役所、コミュニティーセンターなどの子育て情報をいつでも見られるように整理・配置した。</p> <p>・最新の幼稚園・保育所・あそび場、サークル、子育て支援拠点などの情報を必要なときにすく手に取れるように地域別に整理した。</p> <p>・地域情報マップを作り、利用者から地域情報を発信できる場を設けた。</p> <p>・わはは・ひろば専用サイトの運営。その他、本体NPOで収集した情報を携帯メール、インターネット、情報誌等で提供。</p>
④子育ておよび子育て支援に関する講習等の実施	<p>・防災講座 計5回 ・乳幼児のための救命講座2回/年・新生活座談会・幼稚園座談会</p> <p>・子育て座談会 年4回・絵本の読み聞かせ・ふれあい遊び（毎日）</p> <p>・プレママ&赤ちゃんひろば・ツインズデー</p> <p>親子または保護者が様々な講習や座談会に参加できる機会を設け、子育ての悩みの軽減につなげたり、同じ立場や同年代の子どもをもつ人と交流をしたりできるようにした。</p>

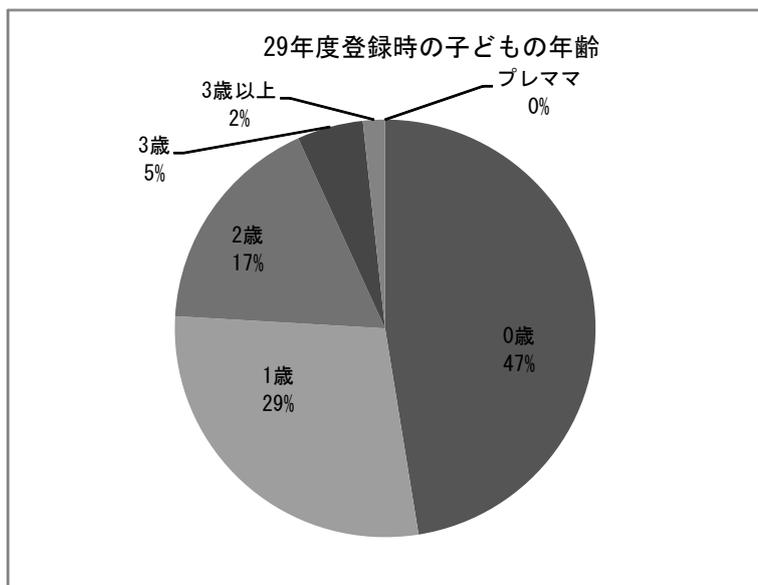
平成29年度 わはは・ひろば香西 月別利用者数



利用人数が前年度よりやや減少している。地域の子育てサークルや親子教室の利用も多く聞かれる。夏場、冬場の土間あそびが厳しい季節は利用が大きく減少した。



昨年同様、4ヶ月児相談訪問時にパンフレット手渡しし、ひろばの説明を丁寧に行った。また、HPの更新を増やしひろばの様子を広報することがきっかけとなった登録が多かった。全体的には、新規利用が減少しているためさらに地域へ出向いてひろばを周知し、登録につながるようにしていきたい。また、利用者からの紹介も効果が大きい為「紹介セット」を作り、紹介してもらいやすい。



前年同様0～1歳の登録が75%を超えている。0.1歳での登録は4ヶ月児相談や乳児相談やひろばデビューデーや赤ちゃんひろば等のイベントがきっかけとなっている。2歳以上の子どもたちの登録が少ないので、2～3歳の子どもが楽しめるイベント企画とともに地域のサークルなどに広報活動をしていきたい。

【まるっ子ひろば】

指定管理事業「まるっ子ひろば」（さかいで子育て支援センター）

1. 自主事業

- 目標：①安心・安全の確保（安心して生み育て、健やかに守られて育つ環境）
 ②利用者の視点（子ども・保護者・地域）にたった運営
 ③連携機能の強化（妊娠期から切れ目ない支援実施のため各所と連携）
 ④民間ならではの柔軟で機動性のある運営

29年度の目標に対する成果と課題

館全体では坂出市の目標利用人数 12,000 人を超え 13,012 人の利用となった。増加の内訳はひろばの利用者数が大幅に増加となっている。

目標①に関しては、毎月の施設内定期安全点検に加え、火災・地震を想定した避難訓練を実施することで、不測の事態に備えた体制づくりを行い安全な環境を整えた。ソフト面ではわくわくひろばを開催し発達に難しさのある子どもへの遊びの場の提供と保護者同士のつながり作りを行った。

②については、アンケート結果から外広場の遊具の充実・水遊びの要望に基づき、外ひろばに三輪車を入れたり水あそびを実施。地域の方の協力を得ながら畑づくりをしたり、子どもの活動の幅を広げることができた。

③については、さかいで子育てフェスティバルの開催を通じて、市内の子育て支援に関わる団体、行政との顔の見える関係づくりの強化となった。

④に関しては、こころひろまるくんの導入や子育てフェスタでの他業種との協力を得られ、その後ひろばイベントにつながることもできた。（協力団体：コープ・青年会議所・harmony（鍼灸））

<p>①センターの管理業務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心の確保及び不測の事態に備えた体制づくり、内部連絡システムの徹底：坂出市消防本部消防署消防士を招き、ひろば利用親子も参加しての防災訓練を11月17日・に行った。地震を想定した避難訓練を5月30日に実施した。 ・利用規約の徹底：どの利用者也気持ちよくセンターを利用できるように、会員登録時に利用規約を読み上げ、利用者とともに確認した。 ・危険箇所整備や見回り等：毎月の安全点検を実施した。不備が見つかった大型遊具は業者に連絡し、補修を行った。 ・掃除・整理・整頓の徹底：担当箇所を決め毎朝の清掃を丁寧に行った。 ・利用者の声が聞ける対策：利用者アンケートの実施（実施期間：平成29年7月、平成30年3月）。 ・利用者の登録・管理：会員名簿を作成・管理した。 ・苦情解決窓口の設置：「みんなの声」（ご意見箱）を入り口付近に設置した。
<p>②さかいで子育てフェスティバル</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10月28日実施。市内の子育て支援関係団体9団体にブース出展してもらい、子育て支援活動PRや親子遊びを提供してもらった。 ・まるっ子ひろば全館を活用して親子とも遊びに来て楽しめるイベントを実施できた。 ・実行委員会形式でイベント内容を考え、地域の団体との交流を深めることができた。
<p>③ネットワーク・研修等事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・さかいで子育てネットワーク会議（さかいで子育てフェスティバル実行委員会）（6/5、7/10、8/18開催） ・まるっ子リサイクルデー（6/12～21日、10/30～11/10実施） ・まるっ子ひろばHP、Facebook等で活動の紹介をした。

2. 「まるっ子ひろば」子育てひろば

目標：私たちのひろばを作る

◆イベント…「毎日来て楽しい、明日も来たい」と思える遊び・活動を取り入れる。

自由あそびの中で体を動かす遊びや工作を行い、季節の行事などのイベントも増やした。また相互託児を用いたハンドメイド講座(1回)も実施。

【成果】昨年度より利用者数が約1100人増加。週2回以上利用の利用者が約30%となり(9月アンケート)、イベント準備などにも積極的にかかわってくれるようになった。

◆情報提供…親も子も楽しんでいる様子を発信していく。

幅広く情報がまとめられるよう配置に工夫したり、利用者口コミ情報ファイルを作成。HPやFBの更新回数を増やし、様子がより伝わるようにした。【成果】利用者同士交流のきっかけとなり、情報交換につながった。また、ひろばを知ったきっかけもHP・FB・インターネットが全体の約15%を占めた。

◆スタッフのかかわり…誰でも来れるひろばを意識し、スタッフで連携を図る。

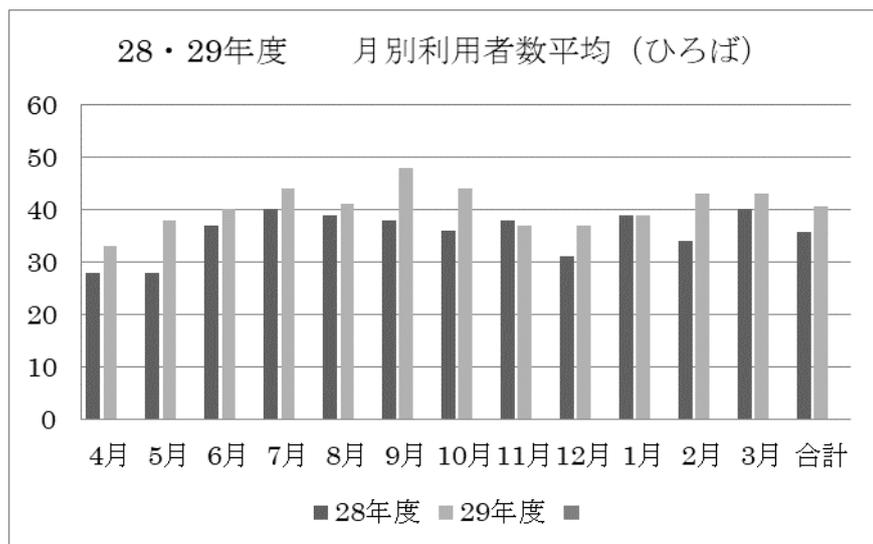
スタッフの動きを見直す時間をとり、場面に合わせた動きの確認・共有を行い連携を心掛けた。【成果】連携を意識しながら、一人一人に寄り添った対応を心掛けたことで、アンケート項目「スタッフに子育て相談できる」が前期5%→後期7%へ増加。

◆地域連携…祖父母、地域の方との交流をおこなう。

屋外ひろばで野菜・果物の栽培を実施。地域の方々をお招きしての交流会(2回)、松寿荘との交流会に親子と参加(2回)を行った。【成果】ひろばと地域の方々との継続的な関係づくりの機会となった。

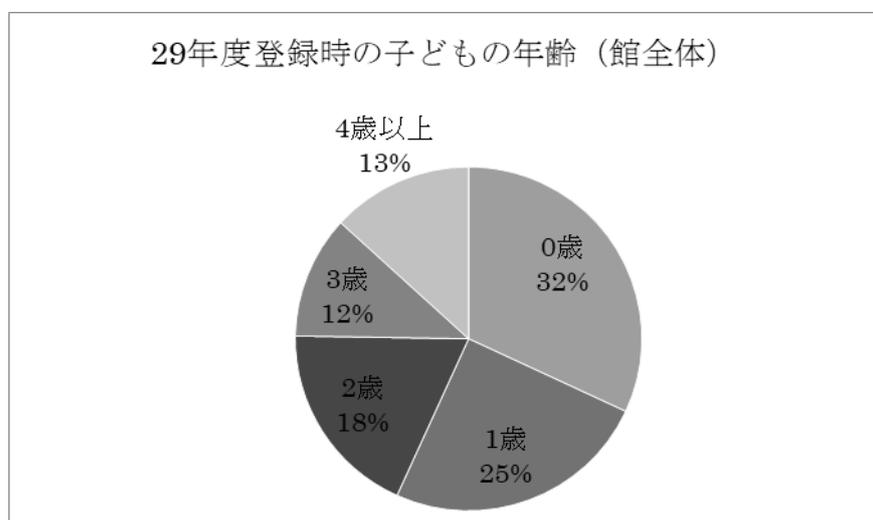
<p>①子育て親子の交流の場の提供と交流の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・要綱以上の職員配置をし、いつ来ても馴染みの職員に見守られる安心感を提供できるよう心がけた。 ・昼食時間を設け、食事を共にすることで交流を促進した。 ・ひとり親*多胎児*妊婦*父親*祖父母等様々な利用者を温かく迎え入れ、利用を促進するよう工夫した。 ・はじめての人も来やすい(来館動機づけ)プログラム~様々なニーズに対応したプログラムを実施した。【提供プログラム】誕生会・赤ちゃんひろば・ツインズデー・防災デー・ランチデビューデー・音楽ひろば・大型絵本の日・発達相談・季節遊び・工作・水遊び・遊びワークショップなど
<p>②子育て等に関する相談・援助の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家を交えた座談会式子育て相談を実施し、ニーズやケースに応じて相談室で個別相談に応じる等様々な形での相談体制を整えた。 ・子どもの発達相談に応じるだけでなく、保護者の抱える課題やニーズを汲み、家族まるごとの支援を行うよう心がけた。 ・利用者との対等性を重視し、必要に応じて様々な機関と連携した。特に利用者支援事業との連携を十分に測り、ワンストップで相談に対応。
<p>③地域の子育て関連情報の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報コーナーを設置し、公的情報のみならずインフォーマルな子育て情報も提供した。また子育てに限らず生活情報として必要な情報を提供するよう心がけた。 ・最新の幼稚園、保育所、遊び場などを分かりやすくファイルに整理し、見やすく提供した。 ・子育てに関する新聞記事や講座などの資料を掲示した。 ・わははひろば専用サイトの運営。その他、本体 NPO で収集した情報を携帯メール、インターネット、情報誌「おやこ DE わはは」、Facebook 等で提供した。
<p>④子育ておよび子育て支援に関する講習等の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のニーズを把握し希望の多い講習やプログラムを実施(年度の会、クッキング)。 ・専門家(発達・医療・防災・子どもの遊び等)を招いて日常では聞けない講座等を開催した(助産師による育児講座、栄養士による食育講座、臨床発達心理士による子育て座談会)。 <p>【地域連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校のボランティア、看護学校・子育てタクシードライバーの実習を受け入れ。

平成 29 年度 まろっ子ひろば

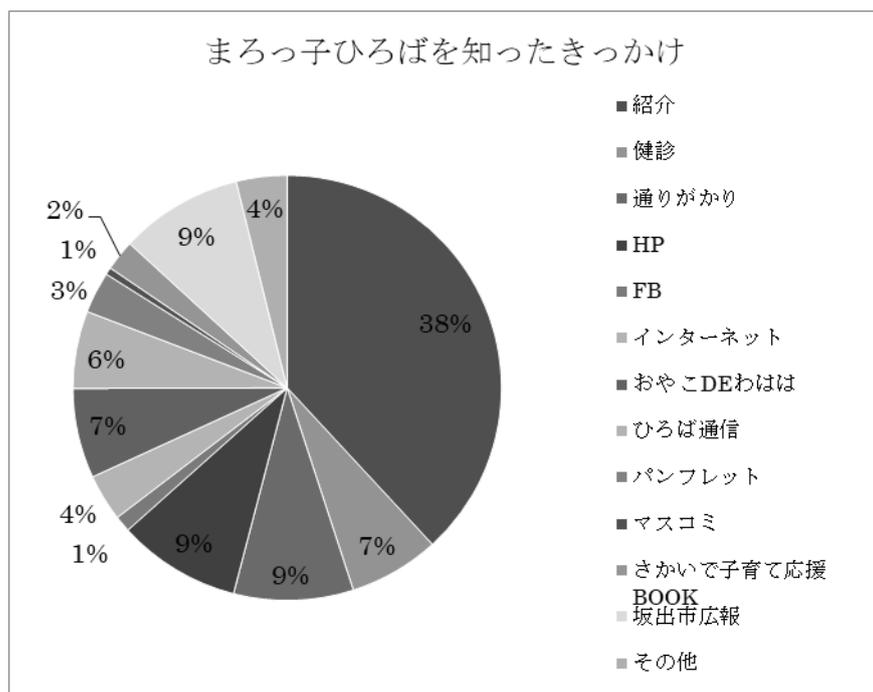


年度初めはひろば利用者が入園等で入れ替わるため、利用が少なかったと考えられる。また、寒い時期や感染症流行時期は減少しているが、全体的に昨年度より増加している。

今年度は館全体で子ども 550 人を超える新規登録があり、これが利用者数増加の要因と考えられる。



0～1 歳が55%を超え、3 歳が30%を占めており、これは昨年度とほぼ変わっていない。昨年度同様、屋外で遊ぶことができ、室内も広く大きな年齢の子どももののびのび体を動かして遊べるひろばの特徴が表れていると考えられる。



まろっ子ひろばを知ったきっかけは、友人知人・市役所・保健師等からの紹介が約40%となっている。これはひろばを利用してみて満足度が高かったため友人に紹介するという、よい口コミが波及していると考えられる。

3. 「まるっ子ひろば」子育て相談

目標：地域子育て支援拠点での利用者からの相談を受ける

- ・相談件数は坂出市数目標数位 100 件/年を上回る 437 件/年であった。
- ・前年度に比べコーディネーター相談での来所が増加。
- ・目標の効果としては子どもの発達に不安を抱えているケースを中心に常田先生と連携し随時個人相談を実施。その後、拠点スタッフと連携し子どもの発達に応じた関わりを行い、相談者のソフト面と子どもの発達と同時に支援を行うことができた。
- ・わはは・ひろば坂出へ出向いての相談(1回/月)では平均して10件の個人相談を実施。普段通いなれている場所で相談できることが相談件数の多さにも反映されているのが1点と市内の待機児童増加の不安と私立の幼稚園が認定こども園へ移行しているためと考えられる。
- ・ダブルケアカフェの実施は、子育て支援拠点で行うことで子どもを遊ばせながら相談できことから継続した相談があった。地域包括支援センターの同席により専門相談から支援につながった。

- | |
|--|
| <p>① 利用者の個別ニーズを把握し、それに基づいて情報の集約・提供、相談、利用支援等を行うことにより、教育・保育施設や地域の子育て支援事業等を円滑に利用できるよう実施に関する事。</p> <ul style="list-style-type: none">・電話相談、予約による来所相談を受け付けた。・保健師と同行訪問し、子どもの育ちと相談者のフォローを役割分担し支援を継続して行っている。・保健師・女性相談員・地域包括支援センター・こども課・民生委員とのケース会を持つ等、地域の他機関と連携し相談者の支援を行った。・子育て関係機関（認定こども園・サークル・保健センター等）への訪問挨拶・情報収集をし訪問シートを作成しより利用者の状況に応じた情報提供ができた。 |
| <p>② 教育・保育施設や地域の子育て支援事業等を提供している関係機関との連絡・調整、連携、協働の体制づくりを行うとともに、地域の子育て資源の育成、地域課題の発見・共有、地域で必要な社会資源の開発等に関する事。</p> <ul style="list-style-type: none">・3.4ヵ月健診に出向き、保健師と顔の見える関係の構築に努めた。・わはは・ひろば坂出へ出向き情報提供個別相談を月に1回以上実施。相談日に合わせて来所者も多く1日の相談ケースも多い。その後、拠点スタッフと連携し見守り継続支援を行った。・坂出市地域包括支援センターと連携しダブルケアカフェを月1回実施。・ファミリー・サポートセンター等の市内の支援機関と連絡・情報共有を行う。ケースを通し支援内容の共有ができて役割分担が細かく協議することができた。・たかまつ地域子育て支援コーディネーターをはじめ県外の利用者支援への継続支援となるコーディネートを行った。 |
| <p>③ 本事業の実施に当たり、リーフレットその他の広告媒体を活用し、積極的な広報・啓発活動を実施し、広くサービス利用者に周知に関する事。</p> <ul style="list-style-type: none">・リーフレットを作成し、3.4ヵ月健診で配布、まるっ子通信配布箇所にも配布した他、地域のイベントにおいても配布した。・香川県内に無料配布されている子育て情報誌「おやこ DE わはは」、わははメール、まるっ子通信に子育て支援コーディネーターについて掲載した。・3.4ヵ月健診に出向き事業説明を行った。・HPにて、子育て支援コーディネーター事業や取り組む状況を掲載した。・NHK『ハートネットTV』によるダブルケアについての取材・新聞・ラジオなどのメディアでの情報提供・広報活動を行い市内だけでなく県内幅広い広報となった。 |
| <p>④ その他事業を円滑にするための必要な諸業務に関する事。</p> <ul style="list-style-type: none">・スタッフ1名が、子育て支援員研修(利用者支援基本型)を受講した。・臨床発達心理の先生にスーパーバイズをもらいながら支援を実施した。・松寿荘の高齢者とのふれ合い交流を実施。・地域の方、地元JAの協力によりまるっ子菜園をつくり地域交流の場をつくった。 |

4. 「まるっ子ひろば」一時預かり

目標：体制・利用方法の仕組みを整え安心して利用できるようにする。

【成果】坂出市目標数値 250 人/年を上回る 276 人/年を上回る利用があった。

【実施計画】

- ◆一時預かり事業利用申請から利用までの流れを構築し、親子がスムーズに一時預かり事業を利用できるような体制づくりをする。
 - ・予約から申請まで特定のスタッフが受ける事で統一した説明を行うことで行き違いなどのミスが少なかった。
 - ・しおりを作成し HP に掲載し利用方法・持ち物等を見てわかるようにした。

- ◆子どもが安心して一日を過ごせるような保育室の環境作りを行う。
 - ・引き戸の扉を外す、流し台の下の鍵をかけるなどの環境設定を行った。
 - ・月に 2 回 2 名でのおもちゃ、室内環境などの詳細な項目建てをし安全点検を実施。

- ◆一時保育を通して子どもの発達を促進し、保護者が安心して子育てできる環境構成を行う。
 - ・予約状況、一時預かり時の子どもの様子を把握でき予約時に子どもに応じた人数や組み合わせの調整を行い。安全は保育環境を提供できた。

- ◆一時預かり事業について周知し、保護者のニーズに応じた一時預かり事業を整備する。
 - ・予約日を固定から平日は毎日受けることへ変更し利用者のニーズに合った予約を受けられるようになった。
 - ・子どもの成長に合わせて外遊びや 2 階の拠点で保育を行った。
 - ・預かり時の子どもの聞き取りを体調や成長段階に応じた内容にし、どの時々の子どもの様子に合わせた関わりを行った。
 - ・一時預かりの子どもの様子や保護者の状況に合わせてコーディネーターと連携し、他の支援や相談につなげた。